

山梨県立ふじぎくろ支援学校でのボランティア活動



歯学部 植田紫衣生 (近畿大学附属豊岡高等学校出身)

私が今回このボランティア活動に参加した動機は、歯学入門の授業を通じて小児歯科に興味をもったことです。授業では小児歯科の先生が時々学校にいらっしや、小児歯科についてお話をさせていただくうちに、自分と年の離れた小さな子供とどういふうに話をすればいいのか、また自分はそれができるのかを考えるようになりました。

当日を迎えるまでは、うまくコミュニケーションを取れるのか、不安でした。しかし夏祭りのダンスブースで小さなお子さんと一緒にダンスをしたときには、一緒にニコニコしながらダンスができ、参加してよかったと思いました。コミュニケーションの取り方は言葉だけではないということに改めて感じる瞬間でした。また、くじ引きでネコのぬいぐるみを当てた男の子が嬉しそうにそのネコを私に見せてくれて、とても幸せな気持ちになりました。

支援学校の子どもの中には話しかけると言葉をかえてくれる子どももいれば、ニコニコしてくれる子どももいます。その場その場で状況を判断し、相手に合わせてコミュニケーションをとることが大切だということがわかりました。



公開講座開催

日本語から見る英語の構造

英語科 講師 吉川 裕介



今回で第35回目となる昭和大学公開講座が5月30日の土曜日に富士吉田キャンパスで開催されました。公開講座が掲げる「暮らしと健康」という主題との兼ね合いのなかで、自分の専門領域とどのように結びつけることができるか試行錯誤を重ね、「日本語から見る英語の構造」という演題に至りました。そのような過程のなかで、健康と語学学習の接点について考える好機となり、これまではもち得なかった観点から語学を捉え直すきっかけにもなりました。

講演では初めに、身近な日常生活でよく目にする英語表現から、医療現場で使用される専門用語について紹介しました。次に、日本語の構造を理解したうえで英語を学習することの重要性について触れました。具体的には、英語は「スル言語」、日本語は「ナル言語」という言語類型論の観点から言語を捉え、言語の違いは文化の違いを反映しているという立場に基づき、英語を学習する大切さを話しました。

講演のなかで非常に感銘を受けたことは参加者の学習意欲の高さでした。参加された方の多くはご高齢者でしたが、目を輝かせながら傾聴し、熱心にメモをとり、意見を積極的にフロアから演者に投げかける姿を目の当たりにし、生涯学習者として学び続ける姿勢の大切さを実感致しました。

富士吉田キャンパスは多岐にわたる専門領域の教育職員が揃った環境です。この特色を活かし、医療にまつわる興味に応える一方で、普段はあまり接する機会が少ない学問と出会い、興味をもっていただけるような場も同時に提供できるようになればと心から願っております。

7月1日は富士山(山梨県側)の山開き。富士吉田地域の家庭ではこの日にジャガイモとヒジキの煮物を作って食べる習慣があります。ホクホクとしたジャガイモと味の染みだしたヒジキはとても美味しいものです。

世界文化遺産の構成資産となった北口本宮富士浅間神社でとりおこなわれる開山祭や、富士山信仰の団体・富士講の方々を迎える「御師の家」でも神前に供えられ、そのお下がりをいただくというならわしがあります。元々は神社および富士道周辺だけの習慣だったともいわれますが、現在は地域全体で山開きを祝う文化として定着しており、山開き前には材料がスーパー等の食品売り場に並び、市内の小中学校の給食でも提供されています。

なぜジャガイモとヒジキなのか？初めて見聞きする人には不思議なこの組み合わせの厳密な理由は分かっていませんが、「海のもの」と「山のもの」を供えるためと伝えられ、手に入りやすく、作りやすいこの2つが定着したのではないかとされています。

地域紹介

ひじきと馬鈴薯

教育推進室 講師 刑部慶太郎



50周年連載企画

1970年代の思い出

医薬資源園 兼任講師 磯田 進

私が昭和大学に入職したのは今から40年以上前の1971年です。当時の建物のうち、現存する施設は1号館と体育館、SGSセンター(旧百合寮、室内プール(当時は野外)だけとなってしまいましたが、薄れつつある記憶を紐解きながら当時のキャンパスを紹介したいと思います。

大学前の市道はようやく拡張されたものの未舗装の状態で、大学の少し上までしか開通していませんでした。この道も拡張工事中、車は宮川の河原を上がってきたということです。

当時のキャンパスは道路東側に1号館と馬術部の馬場(現在の3号館付近)がありました。一方、西側には正門左側のカラマツ林を利用した薬用植物園の標本園(現在のエネルギー棟の一部)、その先に旧百合寮(後に増築、現SGSセンター)、食堂が併設された旧白樺寮(現在の食堂付近)と大きな建物はこの4棟だけでした。旧白樺寮横にはプールがあり、当時は野外ゆえ、水温が低く、学生たちの唇は見る間に紫色に変わり、寒さに震えながらの体育実技でした。グラント西側(現在のすみれ寮、白樺寮付近)には、私が所属した薬用植物園も翌年には開設され、教育に利用されてきました。その横には売店と音楽系部室が併設された山小屋風の春草舎があり、夜遅くまでエレキギターやドラムが鳴り響き、その音量はすさまじいものでした。またグラントは現在のように整備されておらず、草が目立つ凸凹の広場といった状態でした。人の気配がない早朝、ノウサギやリスが走り回る光景を見ることもあり、キャンパス全体がどのかな雰囲気にも包まれていました。

当時のキャンパスの概要を掻い摘んで紹介しましたが、現在のよう活気に溢れ、充実したキャンパスを誰が想像できたでしょうか。隔世の感があります。



昭和大学富士吉田キャンパス配置図(1971)



編集後記

入寮から早3か月。今年も多くの催し物が日々を充実させていたことと思います。

富士吉田校舎は今年で開設50周年を迎え、オープンキャンパスと合わせて行われた寮祭もひととき盛大なものになりました。毎号、表紙に富士山の写真を掲載していますが、今号では寮祭の企画で学生が制作したモザイクアートを掲載いたしました。また、今号から50周年連載企画を始めましたので、時代の移り変わりを感じていただければ幸いです。

次回、第26号の発刊は12月に予定しております。よろしく申し上げます。

事務課 出口太一

白樺百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第25号 2015.7.23 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 小出良平
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 倉田知光
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL0555-22-4403



モザイクアート (富士吉田校舎開設50年にあたり寮生が写真を用いて作成)

富士吉田教育部学生部長に就任して

健康スポーツ科学教室 教授 堀川 浩之

4月1日付けで富士吉田教育部学生部長を拝命いたしました。

ここ富士吉田で昭和40年に医学部男子から始まった全寮制教育は、保健医療学部が仲間に加わった平成18年を経て、今年で50年の節目を迎えることとなりました。大任に身の引き締まる思いです。この富士吉田寮は、学生が寝食を共にしながら、得意分野の科目を教えあい、友情を育み、コミュニケーションを学ぶ場として活用されています。先輩方の中にはここで生涯の伴侶となる方を見つけることができたという幸運な方もいるようです。

学生部長の役割は、この昭和大学ならではの全寮制教育の伝統を引き継ぎ、「大学とは?」から指導が始まる新生を無事二年生へ進級できるようサポートすることだと理解しています。寮では自由気ままに生活できるわけではなく、他人に迷惑をかけない、他人を思いやるのが大事なことだと思います。そのことが破れると指導を受けることになってしまいます。富士吉田の職員がその立場に応じて学生の皆さんにかかる言葉を謙虚に受け止めてください。特に教育職員はコンパと称するグループ担任を受け持っていますが、女子学生の増加による女性教育職員の増員が望まれるなか、本年、助教を含む4名の女性教育職員が採用され教育職員1名あたりの担当学生数も緩和されました。さらに今年度は、コンパ内での交流を図ることをいっそう活発にさせるために、「人間学」という科目があらたに設置されました。様々な機会をとおしてわれわれ職員は学生の皆さんの援助・指導を行ってまいりますので、保護者の皆様におかれましてもお子様の成長を見守りつつ、ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

入寮風景・入寮式

今年度の入学式は4月6日に行われ、明治神宮会館から富士吉田キャンパスに移動し各寮に入寮しました。夕食時には、富士吉田寮でもとに生活するコンパ学生たちと指導担任との顔合わせがあり、食堂体験ならびに利用法についての説明がありました。

翌4月7日は入寮式が行われ、前日の入学式と同様、真新しいスーツで少し緊張気味の学生の表情が印象的でした。校歌斉唱に始まり、教育部長、学生部長からの挨拶、さらに今年は富士吉田市長の堀内茂様よりご挨拶を賜りました。その後、教員紹介に続き、最後に全員で昭和大学宣言を行いました。

また、小出学長と小口理事長による大学Identity教育、内田樹理事による講演会が行われ、とても刺激的な内容に、真剣な眼差しの新入生たちは熱心に聞き入っていました。



記念植樹について

医学部 2年 山本 彩夏 (志学館高等部出身)

東京と異なり、富士吉田市では気温が低く桜も満開とは程遠い4月11日、入寮式後に記念植樹が行われました。1年前には見慣れていて富士山を富士吉田キャンパスから眺めたとき、寮で過ごした日々が昨日のこのように思われ、一年次の思い出が溢れんばかりに心の内に浮かんできました。

1年前に緊張と不安でいっぱいの中中央委員が集まり徐々に親睦を深め、学生生活の運営に携わったことは今でも鮮明に覚えています。しかし今年度の中央委員と話す、すでに委員同士の親睦があり、不安どころかこれからの日々を楽しみにしている様子うかがわれ頼もしく思われました。1年生には、委員会を運営することや寮生活を乗り多きものとするについての先輩方からのアドバイスや私たちの代からのアドバイスを伝えました。1年生・2年生ともに、このようにして代々関係が培われていくのだと実感する良い機会となったと思います。

そして、白樺寮の近くに、会話を花を咲かせ楽しみつ、昨年度と今年度の中央委員が協力し合い、紅葉の木を植樹させていただきました。植樹しながら1年前の思い出や、先生方、職員の方々、友人、寮へと送り出してくれた両親、そして富士山の麓で生活できる環境への感謝と、今年度の一年生が思いっきり寮生活を楽しめ、様々な経験から様々なことを学ぶことができ、かけがえのない思い出ができるようにとの願いとを紅葉に託しました。植樹した紅葉が一年生を1年間傍で見守り、そして何年かあとに同窓会などで富士吉田キャンパスに立ち寄ることがあれば、成長した紅葉が1年次の富士吉田での日々を思い起こすきっかけとなることでしょう。



オリエンテーリング

祝! 今年の学生たちもみせてくれました

生物学 講師 萩原 康夫

初夏の風が心地よい平成27年5月14日の木曜日に第7回目のオリエンテーリング大会を迎えました。コンパ学生の結束力を高める目的で開催されている富士吉田教育部の恒例行事の一つです。

集合時刻が近づくにつれ学生は眠そうな顔で「おはようございま〜す」と挨拶をしながら集まってきました。「昨夜は眠れたか?」「体調はどうだ?」と一人一人に声かけしながらバスへと誘導します。その後、バスにしばしゆられてオリエンテーリング大会会場である「富士緑の休暇村」に到着。注意事項などの説明を受けた後はスタートまで待機。どのグループも和気あいあいとしながら、それぞれ独特の士気高揚を行っていました。そしてスタートの時刻。静かに出発するのかもしれない、奇声をあげて出て行くものもある。仲間割れしないだろうか?いやいや、きっと助け合って笑顔でゴールしてくれるだろうと、不安と期待を抱きながら学生たちを見送りました。

安全な運営のためにコース途中で待機している私たち教員を見かけると、学生たちは元気よく声かけをしてくれました。なかには、道に迷っているグループもありましたが、どのグループも笑顔だったのが印象的でした。地図を読むなんて初体験という学生ばかりですが、友人同士で助け合ったようで全グループがケガも無くゴールイン。ゴール後に、仲間同士で仲良く弁当を食べている様子に微笑みさを感じました。

さて、私が担当する学生たちの結果ですが、第1回目から連続入賞というプレッシャーにも負けず、2チームともに入賞という快挙。みんなご苦労様!



寮 祭

寮祭実行委員長 薬学部 築地 可奈 (玉川聖学院高等部出身)

今年度の寮祭は「Challenge~次の半世紀に向けて~」というテーマのもとで準備が始まりました。このテーマは自分の殻を破るようなChallengeをしてほしいという意味と、今年は富士吉田校舎開設50年ということでそれを祝うChallengeをしたいという意味を込めてつけられました。多くの学生が準備期間から寮祭に関わることができ、新しい自分を発見した学生も多いのではないかと思います。また、50周年企画として体育祭後に全員でおそろいのTシャツを着て人文字を撮影し、展示企画として現在の寮生活と50年前の寮の写真を織り交ぜたモザイクアートの制作を行いました。初めてのことはばかりで手探りをしながらの準備でしたが、新しいことにChallengeできたと感じています。

今年の寮祭は2日間とも雨の予報が出ており、前日から体育祭は体育館で行うと判断されていました。しかし、当日になると驚くほど天候に恵まれ、体育祭も日中イベントも予定通り野外で行うことができました。2日目も快晴で、たくさんの来校者の

方々と学生とで大いに賑わっていました。後夜祭の花火では私自身のそれまでの不安や緊張を全て取り去ってくれるほど感動しました。また、多くの学生から「楽しい寮祭だった」という声が聞けたため、この役割について寮祭を創り上げられたことを嬉しく思いました。同時に、私自身Challengeの連続で、部門長をはじめ、中央委員や部門員に多く支えられて出来上がった寮祭であることも改めて強く感じました。

最後になりましたが、寮祭実施にあたって協力してくださった先生方、父兄の皆様、地域の皆様、事務課の方々、食堂の方、ポイラー関係の方々、先輩方、そして実行委員一同に心から感謝いたします。ありがとうございました。



体育祭を終えて

体育祭実行委員長 医学部 上蘭 侑也 (青雲高等学校出身)

6月27日の午前中に寮祭の前イベントとして体育祭が実施されました。実行委員長として50人の実行委員と一緒に体育祭が盛り上がるように企画してきました。人をまとめる役割や企画を作ることはとても難しく、頭を抱える日々が続きました。当日は、600人近くの学生に競技の進行に合わせて指示通りに動いてもらうことの難しさを痛感しました。しかし体育祭の最中、みんなが楽しく競技している姿や、一生懸命走っている姿を見て、非常に感慨深いものがありました。また、学生同士で注意の声をかけあっているのがとても助かりました。体育祭が終わった後、友達だけでなく、今まで知らなかった人からも「とても楽しかった!」「体育祭をまる一日やりたかった!」などと言われて、頑張ったことが無駄でなかったと実感できました。

体育祭実行委員長として一か月活動してきて、人をまとめる難しさや、意思を共有する難しさを知ることができたのと同時に、やりがい、達成感も得ることができました。体育祭実行委員長を引き受けることで人間的に成長できて良かったと、今では感じています。

